【 94 】

氏名	湯 浅 志 郎
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1520 号
学位授与の日付	昭和59年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	Clinical studies of resistant ascites in liver cirrhosis. （肝硬変低抗性腹水例の臨床的研究）
論文審査委員	教授 木村郁郎　教授 太田善介　教授 小川勝士

学位論文内容の要旨

肝硬変腹水貯留例のうち治療に低抗するいわゆる抵抗性腹水例の臨床病態を把握するために，肝硬変腹水貯留例34例につき詳細に検討した。その結果，肝硬変腹水貯留例の週次累積腹水貯留率曲線の解析より症例を入院後1～3週で腹水消失をみる群，4～12週で腹水消失をみる群および13週以上腹水貯留の持続する群の3群に大別しえた。この成績より入院後13週以上腹水貯留の持続する症例を抵抗性腹水例とすることが適当と思われた。抵抗性腹水例の入院時臨床検査成績は，入院後12週以内に腹水消失をみた群，同期間内に死亡した群と性別，肝硬変の成因，理学所見において差がみられなかったが，検査成績において入院後12週以内に腹水消失をみた群に比し血中尿素窒素，血清クレアチニンが高値で，腎機能異常を呈した。入院後12週以内に死亡した群は，抵抗性腹水例に比し血清ビリルビンが高値，血清アルブミンが低値で，肝細胞機能不全が明からであった。

なお，本論文は共著論文であり，共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査の結果の要旨

本研究は肝硬変抵抗性腹水例について臨床的に研究したものであるが，従来十分検討されていなかった13週以上貯留持続の抵抗性腹水例について週次累積腹水貯留率曲線の解析により腹水消失群及び死亡群と比較し，前者とは腎機能の面で劣り，又後者程は肝細胞機能不全のないことを認め，重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。